

【週刊タバコの正体】

Vol.33 第4話～第7話

2016/02

和歌山工業高校 奥田恭久

■Vol. 33

(No. 455) 第4話 タバコの赤字

ー 2兆円の税金を得てもその健康被害などで6兆円の損失..

前回、1箱(20本入り)430円のタバコは、そのうち276.73円が税金だと言うことを紹介しました。タバコは年間約90億箱も売れるので、毎年2兆円を超える税金が国や地方自治体に納められています。国家予算からみれば大きな収入源で、その予算は私たちの暮らしに何らかの形で役立てられているのです。

ところが一方、90億箱もタバコを吸った人々の健康は確実に損なわれていきます。タバコさえ吸い始めていなければ、かからなくて済んだはずの病気になってしまう人が増えると、当然その医療費も増えます。

(No. 456) 第5話 タバコは高い?

ー 日本はタバコが安いのに、タバコ対策も遅れています..

日本のタバコは1箱(20本入り)が430円です。私たちの感覚では決して“安い”とは言えません。皆さんに協力してもらったアンケートでも、86%の人が「タバコの値段は、高い」と答えています。400円もあれば、一食分の弁当代ぐらいにはなりますからね。

ところが左のグラフを見てください。500円でもタバコを買えない国があります。

(No. 457) 第6話 受動喫煙防止法

ー 日本はタバコが安いのに、タバコ対策も遅れています..

タバコには、4000種類の化学物質、200種類以上の有害物質、60種類以上の発ガン物質が含まれています。人々の健康や命を尊重すれば、そんな有害なものが公然と販売されている事がおかしいのですが、コーヒー等と同じ「嗜好品しこうひん」として世界じゅうに浸透してしまっただけの歴史があるので、タバコを販売していない国は、販売を禁止する法律が制定されているブータン王国ただ一国だけです。

じつは、タバコの販売を禁止しているのはブータン王国だけですが、上の表にあるように主要先進国の大半は喫煙を禁止する法律を制定しています。この表は2012年時点の「受動喫煙防止法」の施行状況をまとめたものですが、公共施設や交通機関はもちろん、自家用車のなかでも禁煙としている国さえあります。

(No. 458) 第7話 世界の課題

ー タバコの害から人々の健康を守るのは世界の課題..

前回、世界の先進国にはタバコによる健康被害を防ぐための法律がある事を紹介しましたね。残念ながら日本にはまだそんな法律がないのですが、各国が「受動喫煙防止法」を制定しているのには理由があるのです。

WHO(世界保健機関)によると、世界中で毎年喫煙が原因で約600万人の人が亡くなっているそうです。月単位にすると毎月50万人の人が亡くなっている計算になります。和歌山県の人口が約100万人なので、たった2ヶ月で和歌山県が全滅するぐらいのスピードです。

そう考えると凄まじい勢いでタバコ病が進行している漢字がしませんか..

毎週火曜日発行

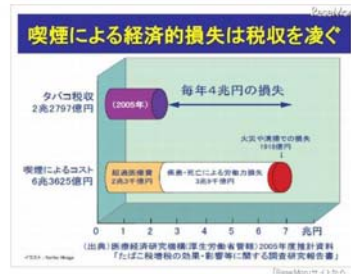


URL: http://www.jascs.jp/truth_of_tobacco/truth_of_tobacco_index.html

※週刊タバコの正体は日本禁煙科学会のHPでご覧下さい。
 ※一話ごとにpdfファイルで閲覧・ダウンロードが可能です。
 ※HPへのアクセスには右のQRコードが利用できます。



前回、1箱(20本入り)430円のタバコは、そのうち276.73円が税金だと言うことを紹介しました。タバコは年間約90億箱も売れるので、毎年2兆円を超える税金が国や地方自治体に納められています。国家予算からみれば大きな収入源で、その予算は私たちの暮らしに何らかの形で役立てられているのです。



ところが一方、90億箱もタバコを吸った人々の健康は確実に損なわれていきます。タバコさえ吸い始めていなければ、かからなくて済んだはずの病気になってしまう人が増えると、当然その医療費も増えます。

そして、そのために働き続ける人々の労働力の損失額は3兆9千億円、さらに、タバコによる火災や事故などの罹損費用などが1918億円にのぼります。これらを合計すると6兆3628億円に達すると推計されています。

このグラフを見ると、毎年2兆円のタバコの税金を得るために、6兆円を超える支出をしていることが分かりますね。つまり、毎年4兆円の赤字を出し続けながらタバコを販売しているわけです。

日本全体としては、この赤字分を別の予算で補っている事になるのですが、わざわざ赤字を出すようなものを売って続けるのはいかぬものかと、ご想像下さい。これからの日本を有言無言にこんな事実を堂々と見せたいと思っています。

産業デザイン科 奥田 恭久



日本のタバコは1箱(20本入り)が430円です。私たちの感覚では決して“安い”とは言えません。皆さんに協力してもらったアンケートでも、86%の人が「タバコの値段は、高い」と答えています。400円もあれば、一食分の弁当代ぐらいにはなりますからね。



ところが左のグラフを見て下さい。500円でもタバコを買えない国があります。

ニューヨークやイギリスでは、なんと1000円を超えています。実は、世界のほとんどの先進国では、日本よりはるかに高いのです。

タバコの値段が高いのは、「人々の健康を優先すれば、タバコは売れない方が多くなるから」です。「1箱1000円もするタバコはもて買えない」と思う人は多く、それならタバコをやめようと思う人が増えるだろうと予想できますよ。

日本のタバコは世界の先進国の中で一番“安い”ので、タバコが買やすい国だと言われるのです。喫煙者にとっては好都合なのですが、喫煙者を減らすとしているのが世界の潮流なのに、「タバコが手に入りやすい国でいいのだから」と思いませんか。

皆さんには、「日本のタバコは安い」という事実を知ってもらった上で、健康な生活を送れる世の中であらねばならないと思っています。

産業デザイン科 奥田 恭久

